

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	脳動脈瘤性くも膜下出血に続発する脳血管攣縮評価方法の確立： 3T MRI Arterial Spin Labeling による脳循環測定			
2. 対象患者	1)16歳以上で性別は不問 2)脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血と確定診断された患者様			
3. 対象となる期間	平成 30年 4月 1日 ~ 平成 32年 3月 31日			
4. 実施診療科等	脳神経外科			
5. 研究責任者	氏名	大熊 洋揮	所属	脳神経外科
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	なし			
7. 研究の意義	脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血は脳神経外科における最も重要な疾患の一つです。その予後を左右する脳血管攣縮をいち早く診断し、治療することが重要です。			
8. 研究の目的	脳血管攣縮の診断には脳血管・脳血流検査が極めて重要ですが、侵襲性のないMRIによる最新の検査方法によって、脳血管攣縮を簡便・確実に診断することを目的としています。			
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合はの方法等)	脳血管攣縮(脳血管攣縮による脳虚血症状)の発生時、もしくは第7~11病日に施行する脳血管撮影における脳血管攣縮の程度を判定します。判定によって数値化された画像上の脳血管攣縮および神経脱落症状と、第0~2病日、7~11病日、あるいは症候性脳血管攣縮発生時に撮影したMRI、脳血流検査との相関について検討します。検査とは別に、従来行っている脳血管攣縮予防法・治療法は同様に行います。			
10. 個人情報の保護	担当医師等は症例報告書の作成、臨床研究の実施に係る原資料及び患者様の同意文書等に基づいた臨床データの公表に関しては、患者様の氏名、疾患が特定されないよう十分配慮いたします。個人データ、同意文書等は研究代表者の監督の下、施錠可能な保管庫で管理を行います。			
11. 利益相反に関する状況	本課題は弘前大学医学部附属病院脳神経外科の研究費により実施されます。研究代表者及び共同研究者に対して個人的な資金等の提供や便宜が行われることはなく、本課題は脳神経外科の研究グループによって公正に実施されます。また、本課題の利害関係については、弘前大学臨床研究利益相反マネジメント委員会に届け出ております。			
12. 連絡先	弘前大学医学部脳神経外科			
	電話	0172 - 39 - 5115	FAX	0172 - 39 - 5116